

本日の勉強会について

録音、撮影は構いませんが、取り扱いには十分に注意してください。

- 本日の内容を、どう受け止め、整理し、言葉にし、発信していくかを考える。参加して終わりではない。
- 問題の本質が広く伝わるようにしたい
～何が本質なのかをみんなで考えたい

勉強(確認)したいこと

- 校庭で何があったのか
- 教育委員会の事後対応
- 事故に結びついたもの
- 検証委員会の問題点**
- 震災遺構、伝承
- 訴訟
- どう向き合うべきか

立ち上げの経緯

2012.3月 話し合いをしていくことを確認

2012.4～市教委と打合せ

(市教委の担当者は2人とも転出)

2012年6月 突然

市教委も遺族も入らない第三者検証委員会
設置が市議会に！

※予算2000万円

※コンサルは入札で

遺族が納得するまで凍結

2012.8月 文科大臣献花

2012.9月 文科省学校安全に関する方針の中で
大川小の検証を明記

凍結していた検証委員会を、文科省がやることに

※予算は石巻の予算

(2000万円 その後5700万円に)

※コンサル会社は随意契約

2012.9～10月 検証委員会設置についてヒヤリング

2012.11月 説明会

2012.10.28 遺族有志考察

検証すべき点

- なぜ意思決定が遅れたのか
- なぜあのような避難ルートをとったのか

2013.2.7～ 検証委員会スタート

2014.2.23 検証委員会最終報告書

事故の原因

- 意思決定が遅れたため
- あのような避難ルートをとったため

検証委員会の方針 2012.11

様々な要因が重なり合って
大きな事故・災害をもたらす。
それらを**すべて明らかにする**
ことが検証として必要

なぜを繰り返す

検証の目的～責任追及ではないが

真実を明らかにし、分析をすると、
責任が明らかになってしまう可能性

それを恐れて検証の調査の腕、あるいは報告書を執筆する筆を鈍らせてはならない。

1年後

事実が明らかにいなくても提言はできる

これ以上検証すると責任が明らかになってしまう

免責制度などがなければ無理（責任を認めている？）

時間や予算で区切らない

1年後

時間がないので...

(いつまでも引き延ばせない)

予算がないので...

2年経ってからの検証なのに

中立公正

原則公開

ゼロベース

新たな成果なし
明らかな事実も曖昧に

現地感覚なし

ラジオがあったかどうか

時計は大川小のものか

後半は欠席者多数

新たな聞き取り～曖昧、誘導的

教育関係者～「忘れた」連発

分析と評価（第4章及び第5章5.5節）における文末表現

推定の確からしさ	用いた表現
ほぼ間違いない場合	～～と推定される
可能性が高い場合	～～と考えられる
可能性がある場合	～～の可能性はある
可能性が否定できない場合	～～の可能性が否定できない
明らかにできなかった場合	～～を明らかにすることはできなかった

24の提言

監視カメラ、衛星電話

校舎の設計、立地

危険を判断できるような子

大川小事故を
ふまえたものではない

2014.2月最終報告のコメント

限界があった、不十分

事実は明らかに
ならなくても提言はできる

達成感

勉強になった

誰のための検証なのか

委員の選出

委員と事務局が親子

学校事故の検証なのに
学校関係者がいない

その他にも疑問が多い

誰の思惑なのか？

検証委員会の実体

情報、証言～委員に伝わらず

誘導的な聞き取り

意見募集、有識者公開ヒアリング
～パフォーマンス

後半は欠席者多数

誰の思惑なのか？

検証委員会設置にあたって

「なぜ」を繰り返す

背後の要因に踏み込み、すべて明らかにすることが検証

責任の所在が明らかに
なることを恐れない

この方針はどこに？

傍聴して
いて
子供の姿が浮かばなかった

大川小事故検証

不十分、おかしい

遺族としても

一般的にも

検証委員自らも

終わらせてはいけない